

# 授 業 概 要

(子ども保育科)

授業のタイトル (科目名) 制作	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 瀧澤 延子	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年生・全期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場において、直ぐに活用できる保育教材を考案して制作することを目的とする。</li> <li>・「保育の言語表現」「保育実践演習」等の授業活動が円滑に行えるようにすることを目的とする。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通年を通して、実習や現場で使える保育教材を、目的を持って創り上げていく。</li> <li>・個々に、授業中での活動がスムーズに流れるように積極的に時間を使っていく。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創意工夫しながら、専門性を十分に発揮して取り組むことができる。</li> <li>2. 設定された枠の中で、積極的且つ計画的に取り組むことができる。</li> <li>3. 向上心を持ち、他者を意識しながら取り組むことができる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通年を通して、実習や現場において活用できる保育教材を創り上げる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①6 月からの保育実習Ⅱに向けて、取り組む作品を考えて、計画を提出する。</li> <li>②通年の実践科目の授業が円滑に進むように積極的に取り組む。</li> </ol> </li> <li>2. 個々の計画に基づき積極的に取り組んでいく。内容について評価しながら進めていく。</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 内容について評価しながら進めていく。</li> <li>17.</li> <li>18.</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> <li>25.</li> <li>26.</li> <li>27.</li> <li>28. 完成品の発表</li> <li>29. 完成品の発表</li> <li>30. 完成品の発表</li> </ol>	
[使用テキスト・参考文献]		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜プリントを配布する。</li> <li>・保育雑誌等を参考にする。</li> </ul>	
[単位認定の方法及び基準]		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・授業への取り組み</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実践演習		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において0～5歳児の保育に従事した。 また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年・通年	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・保育養成における学びが実際の保育にどのようにつながっていくのかを、学生自ら課題に気づき意識して保育実践に挑むことが出来る。 [授業全体の内容の概要] ・前半では主に児童文化財の実践効果について学び、実際にパネルシアターを製作しその技法を身につける。後半これまでの取り組みを振り返り自己理解を深めたうえで保育実践の持つ意義を理解し、保育者としての仕事の準備となる知識を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・児童文化財で実践の場へつなげる為の知識・技術(パネルシアター)を習得する。 ・保育家原義での具体的な事例・問題へ取り組むことで、保育者の実践について理解を深める。 ・保育者としての使命感・責任感・倫理観を理解し、自信をもって保育専門職としての仕事に挑む姿勢を持つ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 様々な児童文化財について  2. 児童文化財の活用方法  3. パネルシアターによる効果と技法について  4. パネルシアター制作の計画  5. パネルシアター制作の実践  6. パネルシアター制作の実践  7. パネルシアター制作の実践  8. パネルシアター実技実践  9. パネルシアター実技実践		16. 保育・教職実践演習の目的  17. 行動を客観視する力  18. 保育職の意義と役割  19. 求められる資質能力  20. 教育課程・保育過程に関する基礎知識①  21. 教育課程・保育過程に関する基礎知識②  22. コミュニケーション①  23. コミュニケーション②  24. 他者との協力	

<p>10. 大型絵本による効果と技法について</p> <p>11. 大型絵本制作の計画</p> <p>12. 大型絵本の制作</p> <p>13. 大型絵本の制作</p> <p>14. 大型絵本の制作</p> <p>15. 大型絵本の制作</p>	<p>25. 保育園における行事の考え方</p> <p>26. 保育実践計画</p> <p>27. 保育実践準備</p> <p>28. 保育実践①</p> <p>29. 保育実践②</p> <p>30. 定期試験</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>必要に応じて資料プリント配布</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</p>